



式典を盛り上げた吹奏楽部の演奏

## 歴史と伝統を未来につなぐ

森田小学校（佐藤勢津子校長）で11月23日、創立130周年記念式典が行われ、在校生139人と保護者らが、同校のさらなる発展を誓いました。

明治19年に山田小、床舞小、大館小の3小学校が合併し「森田簡易小学校」として開校した同校は、これまで8,024人の卒業生を輩出しています。式典では佐藤校長が「先輩たちが築いてきた歴史と伝統を受け継ぎ、一人一人が輝く森田小学校をつくっていきましょう」と式辞を述べました。

式典後のアトラクションでは、同校吹奏楽部34人が演奏を披露。部員以外の児童も、演奏に合わせた歌や間奏での呼び掛けで参加し、元気に節目を祝いました。

## 科学の不思議に興味津々 Mr.マサック科学の実験教室

Mr.マサックこと工藤貴正先生（弘前実業高校教諭）の「科学の実験教室」が11月30日、瑞穂小学校（山谷文孝校長）で開催され、同校児童やその保護者ら約300人が科学の楽しさに触れました。教室では、渦巻きの動画を使った「運動錯視現象」や、テコの原理と金属疲労による「スプーン曲げ」など数種類の実験を披露。児童たちは、目の錯覚など様々な現象を体感し、楽しそうに歓声を上げていました。スプーン曲げに挑戦した白戸裕一朗君（6年）は「難しいのに、先生は簡単にスプーンを切断して驚いた。科学が好きになりました」と感想を述べました。マサック先生は「子どもたちが少しでも科学に興味を持ってくれればうれしい」と話していました。



多彩な実験を披露したマサック先生（右）



講演する大熊教授

## 脳卒中について学ぶ

### 健康づくり講座

市民の健康に対する意識を高めてもらうと11月28日、松の館で「健康づくり講座」が行われ、市民ら約90人が参加しました。

講座では、弘前大学大学院医学研究科脳神経外科学講座の大熊洋揮教授が「脳卒中—罹らないために、罹ってしまった時のために—」と題して、脳卒中の仕組みや予防、すぐに受診が必要な症状などについて講演。大熊教授は「脳卒中は予防が大事。高血圧、糖尿病、高脂血症などの危険因子を管理することがその第1歩」などと話していました。講演終了後、会場の市民からは高血圧の管理などについて多数の質問があり、脳卒中予防に対する関心の高さがうかがえました。

## 国際舞台での飛躍誓う 中学硬式野球 日台国際野球大会

柏地区の松平翔君（弘前聖愛中2年）が、日本リトルシニア中学硬式野球協会東北連盟の選抜メンバーとして、12月29日から台湾で開催される日台国際野球大会に参加することが決まりました。プロの選手になるのが目標という松平君。柏小学校を卒業後、中学校から硬式野球をやるために弘前聖愛中へ進学し、同校生徒らが所属する「弘前聖愛リトルシニア」でプレイしています。今年10月に開催された秋季新人東北大会では、1回戦から4番・捕手として出場。チームを第3位に導いた活躍が評価され、今回の選抜となりました。12月6日、福島市長を表敬訪問した松平君は「チームの看板を背負って、一戦一戦全力プレイをします」と意気込みを語りました。



台湾遠征での活躍を誓った松平翔君（中央）

## 飲酒運転撲滅へ一丸

12月2日、つがる警察署（小坂一男署長）で「飲酒運転撲滅キャンペーン出動式」が県内市町村に先駆けて行われ、参加した関係者が飲酒運転の撲滅を誓いました。式では、市の倉光弘昭総務部長が「酒を飲む機会が増える時期です。飲酒運転や交通事故のないまちづくりを実現するため、お力添えをお願いします」とつがる警察署員らを激励。署員を代表して交通課の鈴木裕矢巡査部長が「飲酒運転をさせない、許さない、見逃さないを信条として職務に尽くします」と宣言し、署員らはパトロールに出動しました。式終了後は、関係者が市内の飲食店を巡回。店主らに交通安全啓発グッズを手渡しながら「飲酒運転は絶対にさせないようお願いします」と呼びかけていました。



飲食店を巡回する関係者



緑白綬有功章を受章した吉田誠也さん（右）

## 地域農業の発展に尽力

木造越水地区の吉田誠也さんが、農事改良について功績が顕著であった方に授与される「緑白綬有功章」を公益社団法人大日本農会（秋篠宮文仁親王総裁）から受章しました。

吉田さんは、水稻と野菜の複合経営を展開し、メロンの高畝雨よけ栽培やスイカの密植栽培の技術確立に大きく貢献。平成24年度には、あおもり「土づくりの匠」にも認定されたほか、県農業経営士会の会長として担い手の育成や農業者の組織化を推進するなど、地域農業の発展へ尽力されています。

12月15日、吉田さんは福島市長を表敬訪問し「若い農家の手本になれるよう、さらに上（紫白綬有功章）を目指してがんばりたい」と今後の抱負を話していました。

## 地域色あふれるおもてなしに感謝

木造地区を中心に活動するつがる市登山団子保存会（花田了会長）が、JR東日本秋田支社より感謝状を贈られました。同保存会は、今年7月30日の「五能線全線開通80周年記念号」運転の際、木造駅で登山団子を披露し乗客を盛り上げました。この地域色あふれるおもてなしに対して感謝状が贈られたものです。12月2日、木造駅で行われた贈呈式では、JR東日本秋田支社の曾田圭介営業部長から花田会長へ感謝状と記念品が手渡されました。曾田営業部長は「地域の方のおもてなしが旅行客の何よりもいい思い出になる。今後も一緒に五能線の魅力を発信していきましょう」と話し、花田会長は「感謝状はとても光栄。これからも協力していきたい」と応していました。



登山団子保存会のメンバーとJR関係者



隊員と一緒に餅をついた鳴海翔天くん（4才）

## 餅つき会で地域交流

12月21日、航空自衛隊車力分屯基地内で餅つき行事が行われ、参加した関係者約100人が、明るい新年を願い力強くきねを振りました。

はじめに栗秋健士基地司令が「基地の運営と同じように、地域の皆さんと協力して、コシのある長い餅をつきあげたい」とあいさつ。餅つきでは、新年に年男・年女を迎える基地の隊員や近隣町内会、基地協力会、米陸軍関係者が「未広がり」の8回ずつ、力強く餅について交流を深めました。

餅つき後の食事会では、つきたての餅が振る舞われたほか、栗秋基地司令らによる三味線の演奏なども披露され、参加者は楽しい時間を共有しました。